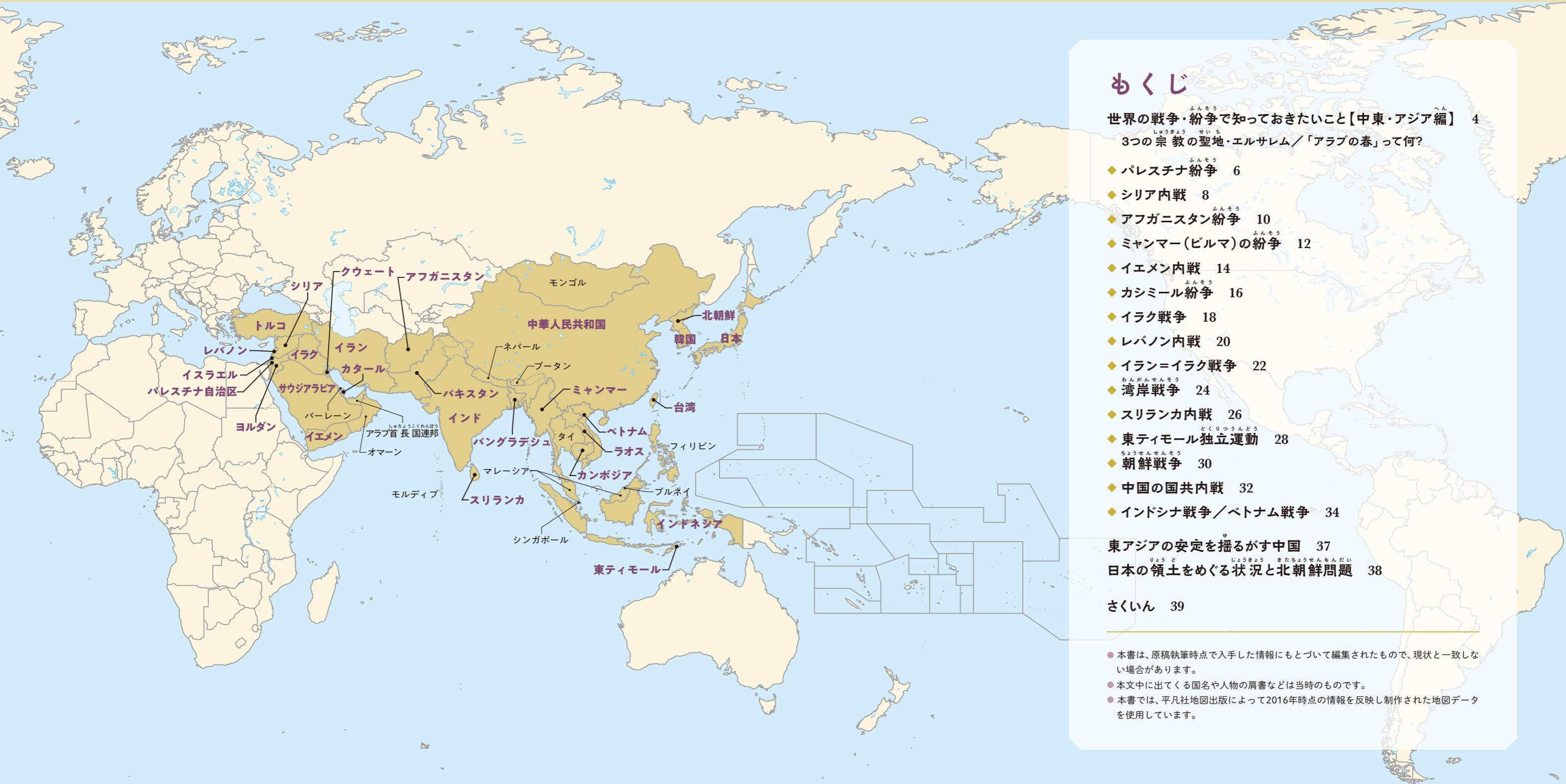


地図でわかる 世界の戦争・紛争

2 中東・アジア

～湾岸戦争・アフガニスタン紛争ほか



もくじ

世界の戦争・紛争で知っておきたいこと【中東・アジア編】 4
3つの宗教の聖地・エルサレム／「アラブの春」って何？

- ◆ パレスチナ紛争 6
- ◆ シリア内戦 8
- ◆ アフガニスタン紛争 10
- ◆ ミャンマー(ビルマ)の紛争 12
- ◆ イエメン内戦 14
- ◆ カシミール紛争 16
- ◆ イラク戦争 18
- ◆ レバノン内戦 20
- ◆ イラン＝イラク戦争 22
- ◆ 湾岸戦争 24
- ◆ スリランカ内戦 26
- ◆ 東ティモール独立運動 28
- ◆ 朝鮮戦争 30
- ◆ 中国の国共内戦 32
- ◆ インドシナ戦争／ベトナム戦争 34

東アジアの安定を揺るがす中国 37
日本の領土をめぐる状況と北朝鮮問題 38

さくいん 39

● 本書は、原稿執筆時点で入手した情報にもとづいて編集されたもので、現状と一致しない場合があります。
● 本文中に出てくる国名や人物の肩書などは当時のものです。
● 本書では、平凡社地図出版によって2016年時点の情報を反映し制作された地図データを使用しています。

世界の戦争・紛争で 知っておきたいこと

中東・
アジア編

3つの宗教の聖地・エルサレム

中東(ヨーロッパ、アジア、アフリカにまたがる地域)の一角に、人口約950万人の小さな国イスラエルがあります。その歴史を象徴するのが、イスラエルが首都に定めるエルサレムです。

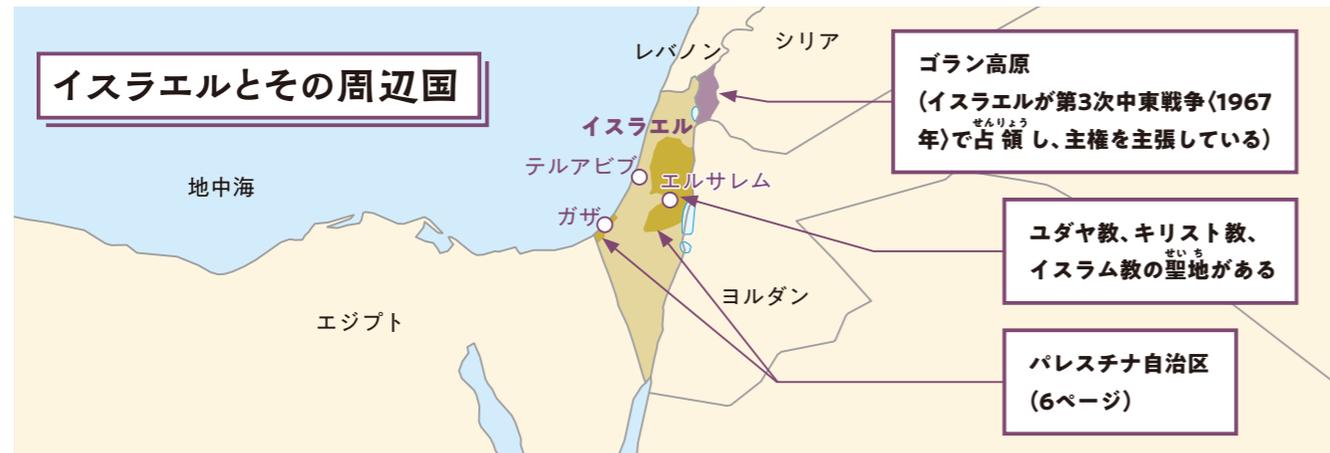
エルサレム市街には、イスラエルに信徒が多いユダヤ教、欧米に多いキリスト教、そして中東の多くの国に信徒が多いイスラム教と、3つの宗教の聖地が集まっています。キリスト教とイスラム教はユダヤ教から派生した宗教で、基本的に信じている神は同じとされていますが、それぞれ解釈がちがいます。そのため、エルサレムでは、ことなる3つの宗教を信じる人びとが共存し、ときにはそれぞれの宗教を信じる国のあいだで争いが起こっていました。

今もエルサレムをふくむパレスチナ地方をめ

ぐり、ユダヤ人とパレスチナにすむアラブ人(パレスチナ人)との紛争が起こっているため、日本をふくむ多くの国々には、エルサレムをイスラエルの首都として認めていません。

中東における現代の戦争・紛争には、第1次世界大戦でのイギリスの外交政策が強く影響しています。当時のイギリスは、アラブ人には独立を、ユダヤ人には「民族的郷土*」の設立を約束しながら、フランスとも戦後に中東を分割する密約を交わしていました。このイギリスによる「三枚舌外交」が、現在にいたる中東問題の発端とされています。

*イギリスは、ユダヤ人には独立国ではなく「民族的郷土」という表現での約束にとどめたが、その後、パレスチナ地方へのユダヤ人の移住が増加し、アラブ人との対立が拡大した。



「アラブの春」って何？

中東や北アフリカでは、第2次世界大戦後も多くの国で、独裁的な指導者や軍による支配がつづいていました。しかし、2010年にチュニジアで起こった反政府デモをきっかけに、各国で民主化運動が多発します。

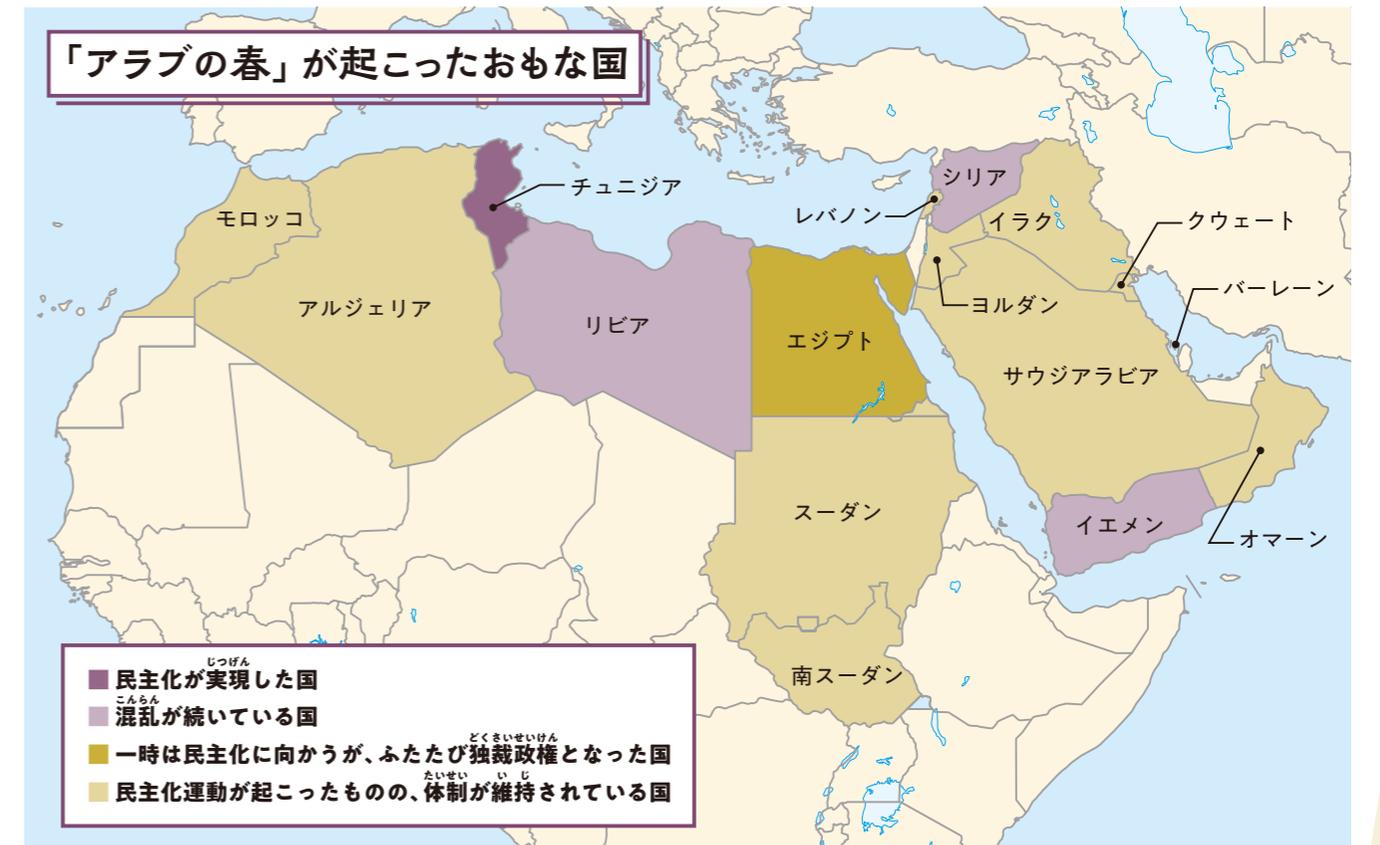
発端となったチュニジアの民主化運動は、2010年12月の、役人の取り締まりに抗議した青年の焼身自殺がきっかけでした。その後、抗議は全国に広がり、23年間にわたるチュニジアの独裁政権は終わりを告げます。この民主化運動は、チュニジアを代表する花であるジャスミンから、「ジャスミン革命」とよばれました。

チュニジアの民主化運動は、ほかのアラブ地域の国々にも広がり、2011年2月にはエジプ

ト、8月にはリビアで、長期にわたって国を支配した独裁政権が倒されました。さらに、サウジアラビアやヨルダン、クウェートやバーレーンなどでも、独裁的な政治に対する民衆の不満が噴出し、2011年には、シリアで民主化運動が発端となって内戦状態となりました。

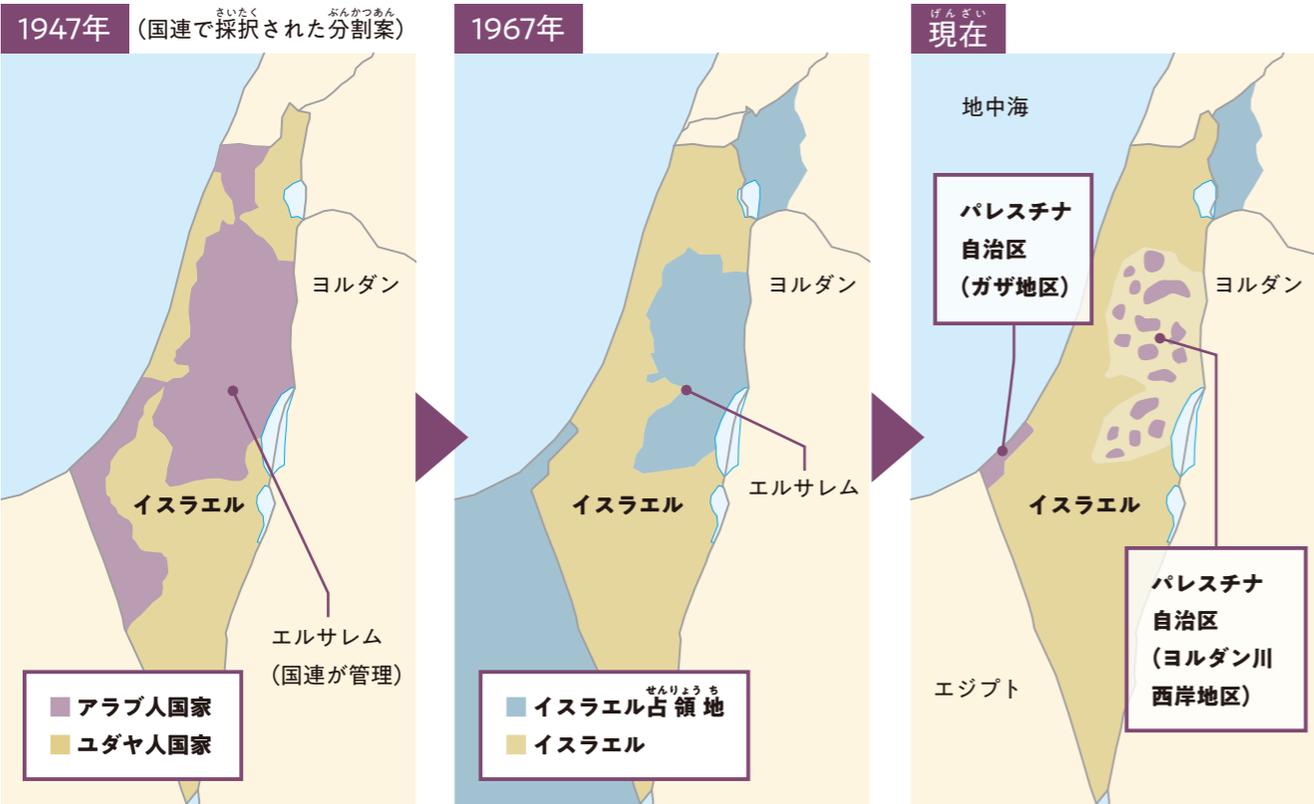
これらの民主化運動は、東西冷戦*時代の1968年にチェコスロバキアで起こった民主化運動「プラハの春」にならい、「アラブの春」とよばれます。アラブの春では、衛星放送やSNSが、民主化運動の力になったといわれています。

*東西冷戦:第2次世界大戦後の、資本主義を掲げるアメリカを中心とした西側諸国と、社会主義を掲げるソビエト連邦(ソ連、現ロシア)を中心とした東側諸国との対立。



パレスチナ紛争

イスラエルのうつりかわり



1948年、パレスチナにイスラエルが建国され、これに反対する周辺のアラブ諸国とイスラエルとのあいだで、4回にわたって戦争がくり返されました(中東戦争)。その結果、第1次・3次中東戦争でイスラエルが大きく勝利し、占領地を広げます。一方で、もともこの地に暮らしていたアラブ系のパレスチナ人は、土地を追われて難民となりました。そして現在にいたるまで、イスラエルの占領地では、パレスチナ人による反イスラエル闘争がつついています。

年代

●1948年～現在

- 第1次中東戦争：1948年～1949年
- 第2次中東戦争：1956年
- 第3次中東戦争：1967年
- 第4次中東戦争：1973年

当事国

イスラエル、パレスチナ、エジプト、シリア、ヨルダン、レバノン、イラク、イギリス、フランス など

戦争を重ねるごとに占領地を広げたイスラエル

ユダヤ人のパレスチナ移住は1920年代から本格化し、第2次世界大戦におけるナチス・ドイツのユダヤ人大量虐殺などをきっかけに増加しました。そのため国際連合(国連)は、パレスチナをユダヤ人国家とアラブ人国家に分割することを提案し、イスラエルが建国されます。

しかし、それに反発したアラブ諸国とイスラエルとのあいだで対立が激化し、4回にわたる中東戦争が行われました。第1次と第3次の戦争で勝利したイスラエルは、占領地を大きく拡大します。一方で、居住地を追われたアラブ人(パレスチナ人)は難民となり、その数は現在、約600万人以上とされています。



レバノンのパレスチナ難民キャンプ (写真: Alamy / Cynet Photo)

今もつづく終わりの見えない戦い



1987年にガザ地区の学校で起こったデモ(インティファダ) (写真: Alamy / Cynet Photo)

1993年のオスロ合意などにより、パレスチナ自治区としてヨルダン川西岸地区とガザ地区が設けられました。これらパレスチナ自治区とイスラエルとのあいだでは衝突がくり返され、特に1987年と2000年にはパレスチナ人による大規模な民衆蜂起(インティファダ)が起こりました。

その後、イスラエルはパレスチナ自治区とのあいだに分離壁をつくり、ユダヤ人の入植地を増やすなどしています。それに反発するパレスチナ側も、蜂起や攻撃をくり返し、両者の終わりの見えない戦いはつづいています。